



～聞こえについて Ver.1～

今号からはシリーズで加齢性難聴や補聴器についてのお話です。

《聞こえづらいのは…年のせい？》

最近、他人と話しているときに聞き返すことが増えてきたとか、家族から「テレビの音が大きすぎる」とか「話す声が大きい」と言われることが多くなってきたけれど、年のせいだから仕方がないと思われることはありませんか。

加齢性難聴は年齢ともに増えてくるのは事実ですが、50歳過ぎからが始まる人もいれば、90歳でも聞こえる人もいますので年のせいとばかりは言えません。

《聞こえづらくなるのが続くと…》

聞こえづらくなると、会話に入っていけないことから関心が持てなくなり、人との関わりを閉ざしてしまう生活になりがちです。

早く気づいて、認め、早めに対処しましょう。



《加齢による聞こえづらさは…》

加齢とともに、音を調節して脳に伝える働きをする細胞が減少したり、内耳の神経機能が低下してきたり、脳の血管や脳の機能自体の機能が老化することによって起こります。

(内耳…鼓膜よりもっと奥にあります)

《しっかりと知識をもとう》

人との関わりを閉ざしてしまう生活を避けるためにも、仕方がないで通さず、まずは自分自身の聞こえについてしっかりと知識をもつことが大切です。

加齢性難聴について

内耳は、高音域から機能低下がすすむため、子どもの声などの高い音の方から聞こえづらくなります。

【程度】・騒がしい環境で会話が聞き取りにくくなる(軽度)

・普通の会話が聞こえにくくなる(中程度)

・普通の会話が聞き取れず、大きな声で話しかける必要がある(高度)

・耳元で話しても聞き取りにくくなる(重度)



一方で、自分自身の声も自分で聞いているので、聴力が低下していると、無意識のうちに声を大きくしてしまいます。

加齢による聞こえづらさは治る？

加齢性難聴は、現代の医学では治りません。不自由さを感じたら、補聴器の使用を検討することが必要ではないでしょうか。

※次回は、難聴の影響からくる聞こえ以外の問題についてです。

参考文献：厚生労働省 eヘルスネット、NHKきょうの健康 2020.1月 他

まもろう ふせごう つながろう

孫や息子に成りすますオレオレ詐欺意！

2020年12月15日 広島県警察本部 生活安全総務課 犯罪情報官速報より

広島県内で孫や息子になりすますオレオレ詐欺の電話が相次いでおり、実際に被害も発生しているのでご注意ください。

こんな文言に注意



『カバンが盗まれた』 『携帯電話と会社の小切手が入っていた』
『会社の小切手を弁償しなければならない』
『お金を貸して欲しい』



これは被害者の親心につけ込み、現金を指定場所に送らせたり、受け取りに来たりする手口です。

だまされないために



- 電話でお金のお話が出たら、詐欺を疑いましょう。
- このような電話がかかってきた場合は、前から知っている孫や息子本人の連絡先に電話して、確認しましょう。
- 不審な電話は、すぐに切り、警察に通報しましょう。
- 家にいるときも留守番電話に設定し、不審な電話に出ないようにしましょう。

還付金詐欺に御注意



役所や金融機関の職員などを名乗って電話をかけ、「医療費や保険料の還付金がある」「ATMに行って受け取り手続きをして」などとウソを言い、ATMを操作させてお金をだまし取ろうとするものです。

★役所や金融機関が、還付金の受取のためATMを操作させることはありません

★このような電話があれば、すぐに電話を切り、警察に通報しましょう。

◆警察への相談は警察安全相談係「#9110」へ